

「香港へ国内販売が難しいサイズのさつまいもを輸出」

<事業者の概要>

1. 所在地：鳥取県米子市富益町4670番地7
2. 代表者：代表取締役 石田 康雄
3. 主な品目：さつまいも、いちご、ミニトマト、玉ねぎなど
4. 主な輸出先国・地域：香港
5. 事業概要：「耕作放棄地再生」と「ユニバーサル就労」を企業テーマに活動する農業法人。農作物の生産・輸出の他、「鳥取県HACCP適合施設認定」を受けた農産品加工施設にて、収穫した農産物を加工し6次産業化商品を製造。



輸出用のさつまいも



作業風景

【輸出の取組内容】

- 自社農場で生産した「さつまいも」を香港へ間接輸出。香港イオン等にて販売。
- 輸出する「さつまいも」は100g程度のものを従業員3~4名で手作業選別。
- 大型冷蔵貯蔵施設を備えたことで、通年で海外（香港）を含む国内外への「さつまいも」出荷が可能。
- パッケージに二次元バーコードを貼り付け、多言語対応した生産地・観光農園情報を掲載することで、効率的・効果的に情報を発信。

【取り組み経緯】

- 国内販売が難しい100gサイズのさつまいもを、香港では蒸して食べる習慣があるとの情報を得て、社内で輸出を検討。
- 鳥取県のビジネスマッチングで香港の商社と取引が成立し、2018年度から海外輸出を開始。

【課題と対応方法】

- 2021年産は100gサイズが確保できず、輸出量が3tに停滞。
→2022年産は、栽培面積の拡大や、大学と協定を結び苗作りや生産工程等の体制を整備。
- 収穫後約1ヶ月程度の熟成期間中に、泥や傷などで一部のさつまいもが腐敗。
→キュアリング処理を施し、軟腐病などの発生を防止。

【実績】

輸出量(トン)		輸出国・地域割合(%)	
2019年	10	香港	100
2020年	10		
2021年	3		

【今後の事業展開】

- ✓ 香港以外にシンガポールなど、東南アジア地域への輸出拡大を図る。
- ✓ 選別作業など一貫した機械化体系を導入し、作業効率の向上を図り、栽培面積を15haから20ha、輸出量を10tから20tに拡大することを目指す。